山鳩の鳴き声

むがし、山奥の里さ仲のいい親子三人が暮らしていたど。ある日、テデオヤ(父親)が裏の山さ薪取りに行って、昼飯どきになったたえに、アッパ(母親)が掲立の餅と豆のコッコ(粉)どご、ワラシ(子供)さ持だひでやったど。テデオヤがうんと腹へっていだたえに、喜んで餅をくったじばって、あまりメェ(うまい)もだたえに、急いで食ってのどさ餅どこハバゲデ(つかえる)しまって死んでしまったど。ワラシはひっくりぎゃったテデオヤどご見で、びっくりしでしまって、「テデ　コッコ(粉)　ケェ(食え)。テデ　コッコケェ」ど、泣いでさがんだど。ンダバッテ(しかしそれでも)テデオヤだばナモ(全然)動がねし、ホエデモ(それでも)ワラシが、「テデコッコケェ。テデ　コッコケェ」ど、さげびつづげだど。シタキャ(そうすると)山鳩さなってしまって、山だの谷だの叫んで歩ぐようになってしまったど。ホエガラ(それから)山鳩は「テデ　コッケェ。テデ　コッケェ」ど、なぐようになってしまったど。ンダタエニ(それだから)山鳩のコエッコ(声)聞げば、ほんとに「テデ　コッケェ。テデ　コッケェ」と聞えるど。おしまい。